シチズンシップ共育企画

2012年度事業概要報告

シチズンシップ
共育企画
Planning Office for Citizenship Co-Learning
「じぶん」になる、「しみん」になる。

〒661-0965　兵庫県尼崎市次屋 1-2-20 ハイツアメニティ 2-203
Tel 070-6506-0369　E-mail info@active-citizen.jp　URL http://active-citizen.jp/

2012.1.1～2012.12.31

シチズンシップ共育企画 ミッション

「じぶん」になる、「しみん」になる。
アクティブな市民になれるために。民主的な対話を実感／実現するために。
市民的リテラシーを獲得した民主主義の担い手が育つ社会の実現のために。

シチズンシップ共育企画は、「市民としての意識と行動力」が向上するための学びの場をつくる NPO です。特に、市民が社会参画していく技能の内、「コミュニケーション力」「協議力（合意形成力）」「マネジメント力」「社会問題発見力」の４つの市民力と、社会参画を支援する力（教育ファシリテーション力）を中心テーマに据えて、講座・ワークショップを実施しています。

任意団体であるシチズンシップ共育企画は、代表者である川中大輔の個人事業として、昨年末に 2012 年度の会計年度末を迎えました。ここに概要をご報告いたします。

1．12 年度事業報告のハイライト

(1) ユース ACT プログラム、ワークブック『「まちの跡取り」の育て方』を発行！
(2) 日本シティズンシップ教育フォーラム（J-CEF）設立へカウントダウン。2013 年に発足へ。
(3) セルフカルチャープログラム、今年の生と死の共育 WS のテーマは「宗教の社会的役割」。
(4) 教育ファシリテーター講座、フレームをつくる「プランニング」の力を鍛える機会に。
(5) ミーティングファシリテーター講座、参加者のファシリテーションシップ涵養の提案。
(6) NPO マネジメント支援、担当講座件数は 96 件！
(7) 神戸市協働と参画のプラットホーム、ソーシャルビジネス推進策が試行段階へ。
(8) 財務は事業収入が減少するも、管理費縮減によって、内部留保に膨らみ。

2．12 年度事業実施体制

当会では規約に基づき、総会の下に日常的な意思決定機関として運営委員会を設置し、原則年４回の定例会議と、原則年２回のリトリートの合宿会議を開催しています。運営委員会ではフェローと共に、組織全体のビジョンや各種方針を立て、事業計画案／事業報告案の策定する他、各種事業の進捗状況共有、新規企画の実施承認等を行っています。2012 年度は年間を通じて３回の定例会議と２回のリトリート合宿会議を開催しました。

執行体制としては、２名の専従職員が各種事業の責任者となり、プロジェクトごとにボランティアスタッフを募ってチームを編成し、事業推進に取り組んでいます。

〈メンバー一覧〉

・運営委員会　　川中大輔（代表）、大本晋也、小林健司、東末真紀、三浦一郎
　　神野有希、古田雄一
・フェロー　　湯浅雄偉、井出大地、城木信浩

・監事　　長尾文雄
・専従職員　　川中大輔（3 月まで）、鈴木陵（事務局次長）
・インターン　　松井康次
・スタッフ　　蔵田翔、山口貴宜、井手葵唯、木上裕貴、辻悠介、道本裕介、仮高広、
南原綾、小寺優樹、谷口優樹（以上 10 名、3 月まで）
井上栞、長坂華奈絵、村尾航平、

3. 12 年度各事業報告

■市民教育事業

(1)ユース ACT プログラム（担当：鈴木、蔵田、山口、井手、木上、辻、谷口、井上、長坂、村尾、井出、城木、川中）

若者が「まちの跡取り」としての自覚や自信を形成するためには、自らが「まち」をつくる側にまわる経験をしつつ、「まち」の多様な人びととの交わりを得て支えられる中で、「まち」への愛着と信頼を育んでいくプロセスが求められると考え、2008 年度から京都地域において、高校生がまちづくり企画の立案・実施・評価に一貫して取り組む市民教育プログラムとして、「ユース ACT（Active Citizenship Training）プログラム」を実施しています。

本事業の実施にあたっては、京都地域でユースワークや市民活動支援等に取り組む機関や有識者によって実行委員会を形成し、様々な地域資源と高校生を仲介できる体制を整えています。当会は実行委員会の事務局を担い、本事業の具体化に向けた諸活動に取組んでいます。

今年度は、6 ヶ月活動する「長期実践コース」と「東日本大震災支援コース」の 2 コースが設置され、その参加高校生 8 名によって発案された、以下の企画が 1 つ実施されました。

・1/28-29　長期実践コース「HEART's キャンプ」の実施（参加者：2 名）
　▷いじめ問題について悩んでいたり、考えている中高生が、それぞれの思いを分かち合いながら、支え合う 1 泊 2 日のキャンプを実施した。
・3/10　東日本大震災支援コース「僕たちができる震災支援」の実施（参加者：1 名）
　▷京都で避難生活をされている方のニーズに基づき、暮らしの環境改善支援に取り組んだ。
・3/4　「Catch Connect Café:」」の実施（参加者：4 名）
　▷ロールモデルとなりうる社会で活躍する高校生を囲んで、その実践を聴き、それぞれの社会参加の方向性を探る機会を設けた。

また、ユース ACT プログラム活動報告会を 3 月 18 日に実施、参加者 15 名を得ました。

今年度も昨年度に引き続き、長期実践コースを設け、京都地域の複数の高校から 8 名が参加し、大学生サポーターと共に、高校生が自らの「まち」への問題意識をもとにまちづくり企画の立案を 10 月に開始しました。今年度から大学生サポーターが候補となる社会課題を設定し、その選択をすることからチームが編成されました。また、企画立案合宿前にフィールドワークを取り入れるなど、調査に基づく実践に力点を置きました。過年度からの継続として企画をより洗練させるための機会として

の実行委員とのディスカッションを行う「スクーリング」も開催しています。

今年度は、参加高校生の募集にあたり、以下のプレ・プログラムを企画実施しました。

・10/21「交流パーティ」（参加者：5 名）
・10/28「オリエンテーション」（参加者：6 名）

事業開始から 5 年を経て、本プログラムへの社会的認知も進み、今年度は以下の場での実践報告の機会も得ました。

・10/5　NPO 法人寺子屋共育轍「まち Cafe」にて話題提供（参加者：7 名）
・12/18　片桐直哉事務所主催「まち☆すた」にて話題提供（参加者：7 名）
・株式会社ふうえん社 家庭科用電子教材「高校生のまちづくり参画」事例としての写真提供

こうした実践の蓄積を活かして、本プログラムを外部普及していくツールとして、『「まちの跡取り」の育てかた』を 3 月に刊行し、その販売を始めました（販売実績 54 冊）。売上はすべて本プログラム参加高校生の活動費補助に充当することとしています。

また、ギャップイヤー（ギャップターム）への社会的関心も高まってきている中、内部進学者や指定校推薦での早期合格者を対象とする、大学入学前プログラム開発／提供に向けて、大学関係者との協議も進めています。

13 年度は過年度の取り組みを検証し、事業企画の方向性や実施体制のあり方等を抜本的に見直し、新しい方向性を見出すことに努めます。

［ユース ACT プログラム実行委員会（敬称略）］

・委 員 長：深尾昌峰（龍谷大学政策学部准教授、(公財)京都地域創造基金理事長）
・副委員長：川中大輔（シチズンシップ共育企画代表）
・委　　員：赤澤清孝（NPO 法人ユースビジョン代表）
　　大下宗幸（NPO 法人地域環境デザイン研究所 ecotone）
　　勝村尚代（NPO 法人ユースビジョン事業ディレクター）
　　野池雅人（NPO 法人きょうと NPO センター事務局長）
　　山口洋典（立命館大学サービスラーニングセンター副センター長）
・監　　事：水野篤夫（(公財)京都市ユースサービス協会事業部長）
・事務局長：鈴木陵（シチズンシップ共育企画事務局次長）

＊本事業は、京都府・京都市・京都市教育委員会・京都府教育委員会・(財)大学コンソーシアム京都から後援いただき、京都府「地域力再生プロジェクト支援事業交付金」、京都市「輝く学生サポート助成 事業助成コース」の助成を受けています。

▷専用ブログ：http://yact.seesaa.net/

(2)日本シティズンシップ教育フォーラム創設事業（担当：川中、古田、湯浅）

日本におけるシティズンシップ教育への関心が高まり、その必要性への認識は一定水準まで高まってきました。概念普及のフェーズから実践展開のフェーズに移行期あると言えるでしょう。また、シティズンシップ教育と銘打っていないものの、同様の意図のもとでの教育取組みが学校教育／社会教

育の両面で既に多く展開されています。しかし、そうした個別の取組みの実践者がつながることは珍しく、経験交流が進んでいないと思われます。また、学校教育関係者と社会教育関係者の間や、実践者と研究者の間といった、異なる層との交流となると一層限定的となっています。

こうした中で、ネットワーキングを通じたナレッジの共有と、グッドプラクティスの掘り起こし、一層の進展に向けたムーブメントの形成のためにネットワーキング組織の設立が必要であると考え、昨年度から「日本シティズンシップ教育フォーラム（J-CEF)」の設立に向けて準備してきましたが、今年度は設立趣意書や規約、事業内容等の具体化を進め、また設立記念シンポジウムの企画についても検討を進めました。13 年度は正式発足の後、J-CEF の総会・運営委員会での決定に基づき、事業推進にあたっていきます。

(3)セルフカルチャープログラム（担当：川中、鈴木）

当会では C.I.「『じぶん』になる、『しみん』になる。」からも明らかな通り、市民教育プログラムにおいて、市民公益活動の担い手としての成長を支援するだけではなく、同時に、一人ひとりが現代社会において自分らしく生きていけるような自己形成等の成長支援も必要だと考えています。そうした、自己の修養と尊重がなされなければ、滅私奉公的な市民教育に陥りかねません。

そこで具体的には、当会では以下の 4 つの視点からワークショップを開発し、実施しています。

①自分に気づく（自分の気持ちや生きかたへの気づき）

②自分を表す（気持ちと考えの表現）

③自分を鍛える（世界観と学び続ける力の鍛錬）

④他者とともに生きる自分を育む（つながりへの気づきと共生の技法の修練）

今年度は、以下の 2 本のワークショップを実施しました。

・12/8　第 46 回衆議院議員選挙直前対策ワークショップ「総選挙、どう考えたらええねん？」（参加者：7 名）

・2013 1/26-27　生と死の共育ワークショップ「何のために宗教はあるのか？」（共催：大蓮寺・應典院、青木将幸ファシリテーター事務所）（参加者：5 名）
ゲスト：平田義さん、秋田光彦さん、ファシリテーター：青木将幸さん、川中大輔

＊「生と死の共育ワークショップ」について、開催スケジュールが変更され、2013 年 1 月に行われることとなりました。

なお、継続的に実施している「生と死の共育ワークショップ」については、各人の「市民としての行動」に軸をもたらす上で、自らの人生の意味や目的を見いだす精神的な成長（spiritual grow）が必要不可欠であると考え、重視しています。特に昨今の教育現場では、「いかに働くか」を主題とするキャリア教育が盛んであり、「いかに生きるか」を主題とする教育機会が決して十分ではないとの認識から、2008 年度以降は重点事業と位置づけています。

13 年度も、「対話・仕事・生死」から自己と向き合い、見つめ直すという今年度方針を踏襲し、継続実施していきます。

▷実施報告：http://active-citizen.jp/zisseki/

(4)講師派遣プログラム（担当：川中）

大学等の高等教育機関において、シチズンシップ教育の視点を踏まえた授業を展開するため、以下の大学等において非常勤講師として講義科目を担当しました。

〈春学期〉

・甲南大学「ボランティア論」（52 名）

・大阪樟蔭女子大学学芸学部「教育社会学」（春学期）（50 名）

〈秋学期〉

・同志社大学大学院総合政策科学研究科「コミュニティ・デザイン論研究」（共担）（5 名）

・大阪樟蔭女子大学学芸学部「教育社会学」（秋学期）（39 名）

・上智大学グリーフケア研究所「NPO 論」（共担）（20 名）

＊上記の他、川中は立命館大学の任期付専任教員（2013 年 4 月～）として、サービスラーニング科目 8 科目を担当し、また同大学サービスラーニングセンターの取組の推進にもあたっております。

(5)その他の事業協力

以下、各自治体や学校機関等が行っている、子ども・若者の社会参画推進やシティズンシップ教育の取組にも、その企画運営に協力しています

■尼崎市教育委員会「社会力育成モデル事業」

・3/16　「社会力育成モデル事業研究指定校担当者研修会」講師（参加者：約 20 名）

・7/2　「19 校生徒会担当者研修会」、「自治のレッスン」講師（参加者：21 名）

・8/6-7　「生徒会宿泊研修」、「地域での自主活動を始めよう！」講師（参加者：57 名、教員：25 名）

■奈良市「子ども条例検討子どもワークショップ」のファシリテーション等業務受託

・7/28　「サポーター養成講座」（参加者：11 名）

「未来をひらく子どもワークショップ」

・7/31　第 1 回「奈良市と私の『いま』」（参加者：28 名）

・8/2　第 2 回「奈良市と私の『未来』(1)」（参加者：22 名）

・8/8　第 3 回「奈良市と私の『未来』(2)」（参加者：28 名）

・8/23, 24 第 4 回「『未来』と『いま』をつなぐ」（参加者：14 名,12 名）

・10/20　第 5 回「これまでの活動をまとめる」（参加者：16 名）

・11/17　第 6 回「私たちの未来をひらく提案！」（参加者：23 名）

■京都市「青少年モニター制度」ワークショッププログラム提供担当（ユースビジョン受託事業）

・8/26　事前研修会（参加者：12 名）

・9/28, 10/11, 10/18「大学のまち・学生のまち京都推進計画について」（参加者：9 名）

・10/25, 11/1, 11/8「デート DV 防止啓発について」（参加者：9 名）

・11/27, 12/4, 12/11「ストップ！迷惑駐輪」（参加者：10 名）

■その他の講師派遣

・神戸市立御影中学校「リーダー研修会」、「参加型会議のつくりかた」講師派遣（8/22）（参加者：46 名）
・龍谷大学「京都発 エコ・デザイン論」ファシリテート担当（京エコロジーセンター連携講座）（参加者：39 名）

■ファシリテーター養成事業

(1)教育ファシリテーター講座（担当：川中、大本、東末、鈴木）

学校教育や社会教育において、参加型学習の導入が一般化し、広がっていっています。各種講座や専門書籍の充実など、ファシリテーションの技法を学ぶ機会も飛躍的に増大し、この動きを支えています。当会でも 2006 年度より「教育ファシリテーター講座」を実施し、適切なファシリテーションの技法を習得できる機会を提供しています。

しかし、参加者との現場での関わりのスキルやテクニックの習得を軸に据えたものが多く、前提となるワークショップそのもののプランニングやプログラムデザインの要諦を学ぶ機会は少ないと言わざるを得ない状況です。そこで、今年度は以下の内容での実施としました。

・10/27-28「ワークショップ・プランニング研修」（ゲスト：長尾文雄さん、大本晋也、東末真紀、小林健司、ファシリテーター：川中大輔）（参加者：10 名）

参加型学習の場において、学び手は「参加型の文化」を体得することになり、また、自分の頭で考え、活動と学習を統合していく力を習得することになります。そうした参加型学習の展開と定着、深化を期待し、そのために何が求められているのかを検討した上で、13 年度も継続実施していきます。

▷実施報告：http://active-citizen.jp/zisseki/

(2)ミーティング・ファシリテーター講座（担当：川中、鈴木）

市民活動組織の運営において、メンバーの力を引き出し、そして統合していくためには、その組織の性質上、参加型会議の運営能力が求められます。また、会議の場が、単純な情報共有や承認の場ではなく、ファシリテーションを通じて、個々人のもっている知恵や知識、能力が共有されていき、創発の場となることで、新たな価値の創造が実現します。

そこで、当会では 2004 年度より「ミーティング・ファシリテーター講座」を適宜開催しており、市民活動組織のメンバーの会議力を向上する機会を提供しています。今年度は、参加者のファシリテーションシップの涵養を図るため、以下の内容で実施しました。

・9/23「進行役ではない参加者の立場から会議を変える方法」（ファシリテーター：川中大輔）（参加者数：16 名）

また、関連事業として、青木将幸ファシリテーター事務所が主催する以下の事業を共催しました。

・11/12「会議ファシリテーション・ここが僕らの最前線」（主催：青木将幸ファシリテーター事務所、共催：シチズンシップ共育企画）（参加者：33 名）

13 年度は、現在のミーティング・ファシリテーター養成の動向を注視しながら、今年度の方向性を基本路線として継承し、その学びの場の充実に努めます。

(3)学びのデザイン研究会（担当：川中）

関西地域のファシリテーターのネットワーキング化と、形式知化される前の現場レベルでの実践知を共有する場として、当会では 2006 年度よりケースカンファレンス形式の「学びのデザイン研究会」を不定期で開催してきました。今年度は昨年度に引き続き、ワークショップの理論と歴史を学ぶ連続シリーズに取り組み、11 回の研究会を開催いたしました。13 年度は、今年度の方向性を継承しながら、より一層の深みを目指した場を設けていきます。

◉2012 年度テーマ「T グループの理論を学ぶ」

・1/24　第 33 回「ワークショップの理論と歴史(2)」（参加者：4 名）
　　「大学の課外での学びへの導入」（発題：長尾文雄）
・2/28　第 34 回「ブックトーク～最近読んだ本から」（参加者：3 名）
・3/27　第 35 回「ボランティア体験からの学び」（参加者：3 名）
・4/24　第 36 回「T グループの理論を学ぶ(1)」（参加者：5 名）
・5/29　第 37 回「T グループの理論を学ぶ(2)」（参加者：4 名）
・6/26　第 38 回「T グループの理論を学ぶ(3)」（参加者：4 名）
・7/31　第 39 回「T グループの理論を学ぶ(4)」（参加者：5 名）」
・8/21　第 40 回「プログラムをデザインする」（参加者：3 名）
・10/2　第 41 回「T グループの理論を学ぶ(5)」（参加者：4 名）
・10/30　第 42 回「T グループの理論を学ぶ(6)」（参加者：4 名）
・12/26　第 43 回「整理された雑談」（参加者：3 名）

＊指定文献：L.P.ブラッドフォード、J.R.ギッブ、K.D.ベネ（三隅二不二監訳）『感受性訓練～T グループの理論と方法～』（日本生産性本部、1971 年）

▷開催記録：http://active-citizen.jp/planning/study.html

(4)骨太教員養成プロジェクト（担当：鈴木）

学校教育現場では、若手教員であっても、着任してすぐに現場の第一線でベテラン教員と同様に活躍することが求められるものの、ますます多様化傾向が進んでいる職能の形成に、既存の教職課程や教員志望学生の取組みは、必ずしも充分に応えきれていません。

こうした教員養成上の課題を踏まえ、当会では 2009 年度から外部委員と共に「骨太教員養成プロジェクト」を設けました。今年度は、過年度にモデルプログラムの開発と試行実践が終了したことから、その結果を踏まえて、新たな方向性を検討し、若手教員や教育実習生の指導にあたるベテラン教員の教育観や教育技法の多様化を促す情報交換会を開催することとなりました。

・11/19 教育のみーてぃんぐ第 1 回「今年の教員採用試験を語る」（参加者 7 名）

13 年度は本プロジェクトの事業の方向性を改めて検討し、今後の展開のあり方を明らかにしていきます。

［プログラム開発委員（五十音順・敬称略）］

・枝広和憲（広島大学大学院教育学研究科博士課程後期課程）
・川中大輔（シチズンシップ共育企画代表）
・富本水子（神戸市立長田小学校教諭）
・羽野ゆつ子（大阪成蹊大学芸術学部准教授）
・深水正和（兵庫県立明石城西高等学校教諭）
・水野篤夫（(財)京都市ユースサービス協会事業部長）
・山下順子（兵庫県立星陵高等学校教諭）
・山本智也（京都ノートルダム女子大学生活福祉文化学部教授）

▷実施報告：http://active-citizen.jp/zisseki/

■協働推進事業

(1)ERC（教育リソースセンター）（担当：鈴木）

NPO 等の地域の教育資源と学校との「教育協働」を促進するため、2009 年度より外部委員と共に「ERC（教育リソースセンター）」のありかた検討に取り組んでいます。今年度は、過年度の調査研究に関する追加ヒアリングを行い、その上で社会発信の方向性を検討しました。13 年度中に情報発信した後、本事業は発展的に終了させ、これまでの知見を踏まえて教育協働の実践に取り組んでいくことにいたします。

［委員会委員（五十音順・敬称略）］

大滝あや（環境教育事務所 Tao 舎代表）
大前吉史（兵庫県立兵庫高等学校教諭）
大本晋也（兵庫県教育委員会事務局社会教育係長）
荻田藍子（(社福)兵庫県社会福祉協議会）
川島憲志（フリーランス）
川中大輔（シチズンシップ共育企画代表）
東末真紀（(特)神戸まちづくり研究所）
松井寛泰（(社福)兵庫県社会福祉協議会）

(2)神戸市協働と参画のプラットホーム受託事業（担当：川中）

2007 年度から引き続き、神戸市市民参画推進局から「協働と参画のプラットホーム」における「NPO との協働に関する研究・調査業務および協働コーディネート業務」を受託し、市民参画のまちづくりの推進に取り組みました。

具体的には、NPO と神戸市の協働コーディネート業務、パートナーシップ活動助成の設計支援、協

働と参画のプラットホームの各種取組に関する共同検討等に加え、特に「神戸ソーシャルビジネス円卓会議」で企画されたソーシャルビジネス推進施策の試行実践の協働にあたりました。

また、神戸市の NPO 施策を協働で設計するための「中間支援 NPO と行政の意見交換会」や、市民活動団体への寄付推進施策についての検討する「市民ファンドと行政の意見交換会」についても継続的にその実行にあたりました。今後もこうした円卓会議形式による参画を一層推進していきます。

協働と参画のプラットホームの協働コーディネート業務については、13年度も継続的に受託できるように努め、NPO ・地域団体・行政の適切な協働／深い協働の展開と、ソーシャルビジネス促進の環境整備に取り組んでいくことを目指し、市民参画のまちづくりの進展に貢献します。

■NPO 支援事業

(1)講師派遣プログラム（担当：川中）

「市民としての行動力」が社会において具体的に発揮されるためには、思いをカタチにしていくマネジメントスキルが必要不可欠となります。そこで、当会代表の川中は当会設立以前の 2001 年より NPO マネジメント講座の講師依頼を積極的に引き受け、当会が設立された 2003 年度以降、全国各地で講座を担当しています。

今年度は、一年間で 96 件（参加者計約 2087 名）の講座へ講師派遣を行いました。下表はご依頼いただいた仕事をテーマ別で分類したものです。

テーマ	件数 （11←10←09←08←07 年度）	テーマ	件数 （11←10←09←08←07 年度）
マネジメント全般	9（7←7←4←3←4）	会議、ファシリテーション	17（10←9←17←10←8）
企画	4（3←7←9←9←8）	広報、プレゼンテーション	3（0←4←0←4←3）
ボランティアマネジメント	7（4←1←3←4←2）	リーダーシップ・人材育成	5（4←5←9←5←5）
評価	4（5←3←2←3←2）	ビジョン、理事会運営	3（0←3←2←6）
中間支援	0（1←1←1←2←1）	協働	8（11←20←10←15←4）
社会起業、ソーシャルビジネス	3（7）	まちづくり	12（5←7←5←2←3）
市民教育、ユースワーク	5（12←3←4←4）	コミュニケーションスキル	6（←12）
政策提言	0（0←4←4）	キャリアデザイン	4（7←6←3←2←1）
		その他	5（4←4←4←3）

今年度は「まちづくり」に関する依頼が増加しています。地域自治の社会的必要性が高まり、その機運が醸成され始めている現在、地域での合意形成支援が求められていることが考えられます。また「マネジメント全般」の内訳としても、地方自治体によるその担い手育成に係る依頼が増えてきており、地域自治の具現化が進みだしていることが分かります。そのため、新しい公共経営に向けた基盤整備として「協働」に関する依頼も継続して見られます。地域ニーズを巡る今後の環境変化から考えれば、地域自治の流れを加速的に進めることが望まれ、当会も各種専門家との連携のもと、引き続き展開していきたいと考えます。

当会に依頼の多い「会議、ファシリテーション」については、一定のニーズが引き続きあることが

確認されますが、近年は集合研修に加え、団体内部研修や依頼団体の会議進行を担う形式も増えています。会議進行の手法が一定広まり、そのカスタマイズがニーズとしてあることが確認できます。

13 年度も、従来からの講座プログラムの充実化に加え、近年の増加ニーズに適切に応えられるよう、プログラムの開発を図り、依頼件数の増加を目指します。

■実施したもの

・1/8-9　ひょうご NPO ユース「新春合宿 2012」、「市民の共感を育み、活動に巻き込む力をつける！」ファシリテーター（参加者：24 名）

・1/14　神戸市社会福祉協議会在宅福祉センター「地域包括部会全体研修会」、「地域団体との協働のコツ」講師（参加者：17 名）

・1/15　京都学生祭典実行委員会「事業評価研修」講師（参加者：18 名）

・1/20　シーズ加古川「職員研修」、「ファシリテーションケーススタディ勉強会」講師（参加者：8 名）

・1/26　四国経済産業局「次代の人づくり事業 若者の会」ファシリテーター（参加者：8 名）

・1/30　岬町「生活・介護支援サポーター養成講座」、第 7 回「活動のプランニング(1)」講師（参加者：15 名）

・1/31　シーズ加古川「職員研修」、「ファシリテーションケーススタディ勉強会」講師（参加者：11 名）

・2/1　岬町「生活・介護支援サポーター養成講座」、第 8 回「活動のプランニング(2)」講師（参加者：18 名）

・2/3　JA 広島「営農・生活指導員養成研修会」、「脱ひらめきの企画づくり」講師（参加者：20 名）

・2/4　奈良市ボランティアインフォーメーションセンター「ボランティアマネジメント講座」、「ボランティアの集め方・育て方」講師（参加者：16 名）

・2/5　こどもコミュニティケア「医療的ケア共生保育教育の人材育成に関するワークショップ」ファシリテーター（参加者：10 名）

・2/8-9　国立淡路青少年交流の家「青少年教育に取り組む団体のための人材育成を考える会」、「なぜ『あの団体』は人が育つのか？」ファシリテーター（参加者：45 名）

・2/15　JA 鹿児島「JA 広報担当部課長会議」、「マンネリ化を打破！気持ちがつながる広報へ向けて」講師（参加者：20 名）

・2/17-18　同志社大学「リーダーズキャンプ 2012」講師（参加者：96 名）

・2/19　天隣乳児保育園「全体研修会」「みんなの思いをたなおろし」ファシリテーター（参加者：17 名）

・2/21　豊島の福祉を考える協議会「第２回協議会」ファシリテーター（参加者：14 名）

・2/24　小野市「おのウィメンズ・チャレンジ塾」、第 6 回「『私』から始まる未来の小野」講

師（参加者：12 名）

・2/25　イエス団「リーダーシップ養成研修会フォローアップセッション」講師（参加者：13 名）

・2/26　阪神北県民局「阪神北夢会議～阪神北地域の魅力を育もう」ファシリテーター（参加者：約 60 名）

・2/27　豊島の福祉を考える協議会「第 3 回協議会」ファシリテーター（参加者：14 名）

・2/29　宝塚市「職員研修」「新しい公共～協働のパートナーを探す～(1)」講師（参加者：17 名）

・3/3-4　東京スポーツ文化館「若者スキルアップ講座（プレゼン編）」講師（参加者：8 名）

・3/6-8　ユースビジョン「気づきを育むコミュニケーション」アシスタント（参加者：12 名）

・3/14　宝塚市「職員研修」「新しい公共～協働のパートナーを探す～(2)」講師（参加者：15 名）

・3/16　尼崎市教育委員会「社会力育成モデル事業研究指定校担当者研修会」講師（参加者：約 20 名）

・3/22　井手町「1 次予防地域リーダー研修」「地域が健康になるために自分ができること」ファシリテーター（参加者：5 名）

・3/24-25　沖縄県内学生団体合同研修「ビジョンを軸に行動できる組織をつくる」講師（参加者：9 名）

・3/26-27　イエス団「新人職員研修」講師（参加者：69 名）

・3/28-29　愛隣館「全職員研修」、「2011 年度をふりかえり、2012 年度の目標を立てる」ファシリテーター（参加者：約 40 名）

・4/2　立命館大学政策科学部自治会オリター団「ファシリテーション研修」講師（参加者：29 名）

・4/9　尼崎市役所「新規採用職員研修」、「市民と行政の協働」講師（参加者：約 70 名）

・5/19　神戸市役所「KOBE ソーシャルビジネススタートアップ支援プログラム」、「ソーシャルビジネスデザインの基礎」講師（参加者：17 名）

・5/25　まちづくりネット東近江「オープニング企画」、「地域で自分を活かす」講師（参加者：17 名）

・6/4　愛隣館「職員研修会」、「聴いて返すトレーニング(1)」講師（参加者：21 名）

・6/7　豊島の福祉を考える協議会「第 4 回協議会」ファシリテーター（参加者：11 名）

・6/11　愛隣館「職員研修会」、「聴いて返すトレーニング(2)」講師（参加者：20 名）

・6/14　生涯学習サポート兵庫「職員研修」、「生サポの会議解体」講師（参加者：9 名）

・6/15-16　イエス団「職員ブラッシュアップ研修会」講師（参加者：22 名）

・6/21　神戸市「まちづくり関係職員研修」、「ベーシックプログラム」、「地域の人との信頼関係のつくり方」講師（参加者：26 名）

・6/28　生涯学習サポート兵庫「職員研修」、「会議の変え方を学ぶ」講師（参加者：12 名）

・6/30　地域創造ネットワークちば主催「うちのボランティア、人が集まらないし、すぐ辞める！対策講座（市原会場）」、第 1 回「ボランティアが集まる団体になる」講師（参加者：21 名）

・7/2　尼崎市教育委員会「19 校生徒会担当者研修会」、「自治のレッスン」講師（参加者：21 名）

・7/5　宝塚市立男女共同参画センター・エル「市民活動支援講座」、「ワタシのまちの動かし方」、第 1 回「チェックしてみよう、私とまちの関係」講師（参加者：17 名）

・7/6　生涯学習サポート兵庫「職員研修」、「会議の変え方を学ぶ」講師（参加者：10 名）

・7/12　宝塚市立男女共同参画センター・エル「市民活動支援講座」、「ワタシのまちの動かし方」、第 2 回「まちの動かし方を学ぶ(1)」講師（参加者：15 名）

・7/14　地域創造ネットワークちば主催「うちのボランティア、人が集まらないし、すぐ辞める！対策講座（市原会場）」、第 2 回「ボランティアを育てる仕組みをつくる」講師（参加者：20 名）

・7/19　宝塚市立男女共同参画センター・エル「市民活動支援講座」、「ワタシのまちの動かし方」、第 3 回「まちの動かし方を学ぶ(2)」講師（参加者：19 名）

・7/21 西宮市民交流センター「会議の進め方」講師（参加者：25 名）

・7/25 川西市職員有志「ミーティング・ファシリテーション講座」、第 1 回「なぜ会議がうまくいかないのか？」講師（参加者：10 名）

・7/26 宝塚市立男女共同参画センター・エル「市民活動支援講座」、「ワタシのまちの動かし方」、第 4 回「まちの動かし方を学ぶ(3)」講師（参加者：15 名）

・8/1　川西市職員有志「ミーティング・ファシリテーション講座」、第 2 回「会議を変える方法」講師（参加者：12 名）

・8/8　川西市職員有志「ミーティング・ファシリテーション講座」、第 3 回「ファシリテーション・グラフィック入門」講師（参加者：6 名）

・8/15　川西市職員有志「ミーティング・ファシリテーション講座」、第 4 回「会議を活性化させてみよう！(1)」講師（参加者：9 名）

・8/22　川西市職員有志「ミーティング・ファシリテーション講座」、第 5 回「会議を活性化させてみよう！(2)」講師（参加者：7 名）

・8/30　イエス団「リーダーシップ養成研修会」、「社会をつくりだすリーダーシップ」講師（参加者：18 名）

・9/9　地域創造ネットワークちば主催「うちのボランティア、人が集まらないし、すぐ辞める！対策講座（山武会場）」、第 1 回「ボランティアが集まる団体になる」講師（参加者：16 名）

・9/10　地域創造ネットワークちば主催「うちのボランティア、人が集まらないし、すぐ辞める！

対策講座（四街道会場）」（参加者：26 名）

・9/11　京都産業大学 F 工房主催「ファシリテーション研修会」、「観察を科学する」講師（参加者：20 名）

・9/13　立命館大学「ユースサービス概論」、「ユースサービスの基本プロセスを学ぶ」講師（参加者：25 名）

・9/14　宝塚市立男女共同参画センター・エル「市民活動支援講座」、「ワタシのまちの動かし方」、第 5 回「ワタシはまちをこう動かす！」講師（参加者：12 名）

・9/16　地域創造ネットワークちば主催「うちのボランティア、人が集まらないし、すぐ辞める！対策講座（山武会場）」、第 2 回「ボランティアを育てる仕組みをつくる」講師（参加者：24 名）

・9/18　ハミング「職員研修」、「地域と共に実現する福祉」講師（参加者：13 名）

・9/19　神戸市役所「まちづくり関係職員研修」、「ケーススタディプログラム」ファシリテーター（参加者：14 名）

・9/22　天隣乳児保育園「職員研修」、「中間ふりかえり」ファシリテーター（参加者：15 名）

・9/25　豊島の福祉を考える協議会「全体会」ファシリテーター（参加者：13 名）

・9/27　宝塚市立男女共同参画センター・エル「男性セミナー」、「生き方を見直すヒント」最終回「私の生き方を見つめ直す」講師（参加者：12 名）

・9/29　西宮市民交流センター「ファシリテーション・グラフィックを学ぼう！」講師（参加者：16 名）

・10/5　佐倉市市民公益活動サポートセンター「ボランティアマネジメント講座」講師（参加者：47 名）

・10/13　神戸定住外国人支援センター「KFC10 月研修会」、「教育ファシリテーターとは何か？」講師（参加者：16 名）

・10/15　西宮市役所「参画と協働にかかる研修」講師（参加者：約 100 名）

・10/19　神戸市役所「まちづくり関係職員研修」、「信頼関係を築くためのスキル［話し方編］」ファシリテーター（参加者：20 名）

・10/29　西宮市役所「参画と協働にかかる研修」講師（参加者：約 100 名）

・11/5　あっとすくーる「渡塾講師会議」ファシリテーター（参加者：7 名）

・11/5　神崎総合センター「人と人とのつながりから人権を考えよう」講師（参加者：10 名）

・11/15　兵庫県立嬉野台生涯教育センター主催「社会教育職員専門研修：評価力向上セミナー」講師（参加者：16 名）

・11/17　NPO のワークライフバランス研究会「休みのとれる NPO の働き方」パネリスト（参加者：約 30 名）

・11/22　尼崎市役所「まちづくり大学あまがさき」、最終回「まちづくりを考えるワークショップ」ファシリテーター（参加者：24 名）

・11/23　日本ボランティア学習協会、「第 15 回日本ボランティア学習学会」、シンポジウム「くらしが変わるボランティア学習」パネリスト（参加者：約 70 名）
・11/29　宝塚市立男女共同参画センター・エル「センターフェスティバル 2012」、「発見！発信！市民力」ファシリテーター（参加者：13 名）
・12/1　京都文教大学「学生 FD の WA!!!」、「ファシリテーション研修」講師（参加者：45 名）
・12/3　淡路プラッツ「職員合宿会議」ファシリテーター（参加者：5 名）
・12/13　JA ならけん「生活文化活動担当者研修会」、「マンネリ化を突破する企画づくり」講師（参加者：72 名）
・12/14　伊賀市役所「女性リーダー養成連続講座（クローバーカレッジ）」、「私たちの伊賀市」講師（参加者：20 名）
・12/16　コミュニティ・ユース・バンク momo「相互支援コミュニティ」、「理事会を活かし組織を育てる」講師（参加者：17 名）
・12/20　国立淡路青少年交流の家「なぜ『あの団体』はお金が集まるのか？」ファシリテーター（参加者：28 名）
・12/22　浅口市役所「あさくち地域づくり『元気塾』」、第 1 回「知恵と力をあわせて地域の未来をひらく」講師（参加者：21 名）
・12/26　淡路プラッツ「職員会議」ファシリテーター（参加者：5 名）

▷実施報告：http://active-citizen.jp/zisseki/shortreport/index.html#sr

〈鈴木担当〉

・6/16　CLUB GEORDIE「理念・使命をかみくだいて『私』とつなぐ」講師（参加者：31 名）
・6/17　関西学院ヒューマンサービスセンター「『うみだす』会議をつくりだす」講師（参加者：15 名）
・7/17　まちづくり・まち育て協議会「これからの神埼北地区のことを考えよう」第 1 回「神埼北地区のことを知ろう」ファシリテーター（参加者：17 名）
・7/24　まちづくり・まち育て協議会「これからの神埼北地区のことを考えよう」第 2 回「神埼北地区にどうなってほしいか考えよう」ファシリテーター（参加者：6 名）
・7/31　まちづくり・まち育て協議会「これからの神埼北地区のことを考えよう」第 3 回「『私たちにできそうなこと』のアイデアを出そう」ファシリテーター（参加者：14 名）
・8/7　まちづくり・まち育て協議会「これからの神埼北地区のことを考えよう」第 4 回「今後の具体的な動きを考えよう」ファシリテーター（参加者：15 名）
・9/16　自主勉強会「ピンクパラソル合宿」ファシリテーションに関する話題提供（参加者：10 名）
・6/20（特）ユースビジョン「ユースビジョンカフェ」話題提供（参加者：19 名）
・12/15 生きがい仕事サポートセンター神戸西「NPO 就職・転職ガイダンス」話題提供（参加者：30 名）

(3)外部委員（担当：川中）

NPO の支援活動として、研修・講座のみならず、以下の機関の外部委員として助言指導や政策形成参画等を行いました。

・NPO 法人まちなか研究所わくわく理事
・NPO 法人 BrainHumanity フェロー
・NPO 法人 CAP センター・JAPAN ネクストステージ委員会委員
・(一財)大阪府男女共同参画推進財団理事
・(公財)京都市ユースサービス協会企画委員会委員
・尼崎市事務事業点検委員会委員
・尼崎東高等学校跡地活用市民検討会座長
・京都市青少年活動推進協議会専門委員会委員
・川西市青少年問題協議会専門委員
・吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館運営協議会委員
・独立行政法人国立青少年教育振興機構国立淡路青少年交流の家運営協議会委員
・龍谷大学地域公共人材・政策開発システムリサーチセンター研究員
・ゆるやかにつながって息長く被災地の女性をサポートする会呼びかけ人

〈鈴木〉

・スマイルひろば企画運営委員
・(特)スマイルひろば理事
・ひょうご NPO ユース世話人

(5)原稿執筆（担当：川中）

シティズンシップ教育や NPO マネジメントに関する原稿を情報誌等で執筆しています。今年度に執筆・掲載されたものは以下の通りです。

〈著書〉

・名取千里、時岡禎一郎、山本麗子、川中大輔　2012　『休みのとれる NPO の働き方』神戸新聞出版センター

〈論文〉

・川中大輔　2012　「よい主権者になる学び–シティズンシップ教育の基礎と実践」、『シティズンシップ教育–平成 23 年度協会フォーラム講演録』明るい選挙推進協会、pp.35-69

〈インタビュー掲載〉

・鈴木陵　「NPO・NGO キャリア情報ポータルサイト〈キャリアストーリー／NPO・NGO で働く人に聞く〉」、(特)ユースビジョン、Web ページ掲載

4. 12 年度決算のトピックス

■収入の部

(1)講師派遣料収入は微増

当会の事業収入を支える講師派遣料については、前年比約 25 万円増となっており、概ね横ばい傾向です。件数もここ数年は横ばい傾向を示しており、一定の安定感が見られます。もっとも、単価の適正化については依然として課題として残っており、今後も適正価格での派遣を目指した交渉に努める必要があります。また、当然に新規顧客開拓にも努める必要があり、主催事業が見直し期間に入る中での情報の発信や拡散のあり方を見いださなければなりません。今後も現状水準を維持できるよう、質的充実も含めて、各種取組にあたります。

(2)主催事業収入は大幅減少

主催事業については、前年比 90 万円減となっています。「選択と集中」を進めるため、2011 年度から 2013 年度にかけて、3 ヶ年計画で幾つかの事業について縮小化を図っており、その流れが収入源にもつながっています。今後一時的には減少傾向が続くと思われますが、「集中」すべきニーズを確定させた後は新規事業開発に取り組み、回復させることを目指します。なお、定員充足率や利益率の向上については過年度の課題として挙げられていますが、今年度もまだ課題となっています。引き続き、改善を重ねていきます。

(3)委託事業収入も意図的に減少

委託事業収入については、前年比約 150 万円減となっています。昨年度、委託事業収入は過去最大規模にまで膨れ上がったため、今年度は意図的に減少させ、その結果となっています。当会は財務規律目標として、事業収入に占める委託事業収入の割合を 30%以下であることを目標にしていますが、今年度は 31.6%（前年度 38.0%）となり、やや改善が見られました。委託事業収入については、財務規律目標を意識し、依存率を高めないように留意しつつも、行政との協働の社会的意義に鑑み、一定の継続的な受託にも努めます。

■支出の部

今年度の管理費支出においては、全体として約 300 万円の縮減が図られ、特に「給料手当（前年比約 320 万円減）」「新聞図書費（前年比約 20 万円減）」で大きな減少が確認できます。前者については、専従職員であった者が一名、期間を限って別事業所に雇用されており、そのことに伴って大幅に減少しています。もっとも、支出が微増している項目が目立ち、構造的な支出削減には至っていません。また運営委員会拡大合宿を視察と兼ねて遠隔地に設定したため、「旅費交通費（前年比約 35 万円増）」のように支出が膨らんでいる項目もあります。

事業支出としては、全体として約 200 万円の縮減が図られ、特に「旅費交通費（前年比約 140 万

円減)」「施設使用料（前年比約 30 万円減)」「事業負担金（前年比約 30 万円)」で大きな減少が確認できます。これらは経費削減努力という側面よりも、主催事業の縮小化に伴うところが大きく、今後の事業戦略に伴って、大きく変動する可能性が高く、管理費支出同様に構造的な改善とは思われません。収入額が減じる予測が立つ中、13 年度についても支出精査にあたり、経費削減努力を進めます。

■全体を踏まえて

今年度は当期差益で約 290 万円の利益を生み出し、繰越金は約 840 万円に大幅に増加しました。黒字決算であったとはいえ、これは専従職員が減少したためであり、職員数を戻した場合、赤字転落の可能性が否めません。支出抑制と新規事業開発に積極的に取り組まなければ、今後の見通しは決して楽観視できるものではありません。

ただし、財務体質転換には時間を要するため、移行期には内部留保を取り崩すことも考えられますが、その場合、有事の際に持ちこたえられる財務体力として 1000 万円程度まで積み上げ、取り崩す際も 500 万円を維持目標として掲げ、規律ある財務運営を継続するようにいたします。

おわりに

2012 年度、当会が関わったプログラムは 149 件（前年比 18 件増）となり、参加者延べ総数は約 2795 名（前年比約 200 名増）となりました。今年度も量的には充実した年度であったと概括できます。多くの方々に支えられていることを覚え、この場をお借りして御礼申しあげます。

当会のミッションに直結している既存の市民教育事業では、非常に大きな変化の一年でもありました。若者の社会参画を推進する取組を幾つかの自治体と協働することとなり、また、日本シティズンシップ教育フォーラム（J-CEF）も設立にこぎ着けることとなりました。シティズンシップ教育への高い関心を一過性の流行に終わらせず、意味ある実践をつくりだし、確かな仕組みを整えていくことに努めます。

現在、主催事業については 13 年度を最終年度とする「選択と集中」を目指した事業の見直しを行っていますが、一定の事業縮小の目処がついたことを受け、シティズンシップ教育を巡る社会動向やニーズ変遷を踏まえつつ、来年度からは新規事業開発に向けた取組に軸足を移していくようにいたします。

昨今の「政治」を巡る動きを勘案するに、シティズンシップ教育の重要性は高まるばかりです。創造的市民社会の成熟と発展に向けて、私たちに課せられているその社会的責任を自覚し、その責任に応答していけるよう、今後もスタッフ一同邁進してまいります。引き続き、関係各位の多大なるご協力とご指導を賜りますよう、お願い申しあげます。

シチズンシップ共育企画

代表　川中 大輔